

## 高校生の早期離職に関わる好事例について

(令和元年度「就職指導の改善に関する研究」研究指定校報告書まとめ)

1 高校を卒業して就職後3年以内の就業者に対して、離職を思いとどまった理由を聞き取ったところ、次のような事例があった。

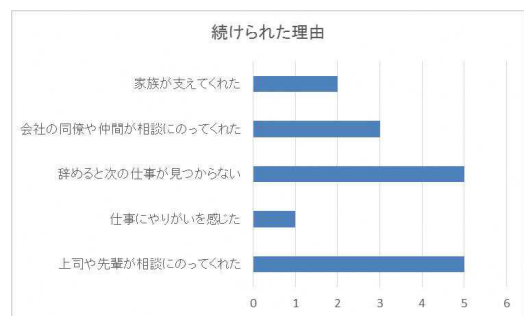
〔 調査は、留萌管内の公立高等学校6校、349名を対象(H28～30年度卒業生)にアンケートを実施したものである。 〕

### ◆概要◆

- 離職をしていなかった方を対象に、就職後3年目の就業者が、早期離職に至らない好事例を調査することを目的とし、次の事項を調査した。
  - ・現在の職場を辞めよう(退職しよう)と考えたことはありますか。  
「ある(53%)」、「ない(47%)」
  - ・退職しようと考えた理由は何ですか。  
「人間関係(50%)」、「仕事内容(50%)」
  - ・離職を考えた時期は就業後、いつ頃ですか。  
「6ヶ月以内(33%)」、「1年以内(22%)」、「2年以内(45%)」
  - ・離職を考えたとき、誰かに相談しましたか。  
「仕事の上司や先輩(34%)」、「仕事の同僚(11%)」、「学生時代の友人(22%)」、「家族(11%)」、「相談していない(22%)」
- アンケート結果では、離職を考えた理由として「人間関係」、「仕事内容」に分かれ、職場における人間関係を構築することが早期離職の改善につながると考えられる。また、離職を考える時期としては、2年目が最も多い結果であることから、仕事を始め1年を経過する頃から、人間関係や仕事内容に課題を抱える者が多いことが考えられる。さらに、離職を考えたときの相談相手としては、「仕事の上司や先輩」、「仕事の同僚」が多くを占めることから、就業者においては、職場での人間関係を構築できることにより、離職を思いとどまることができると考えられる。

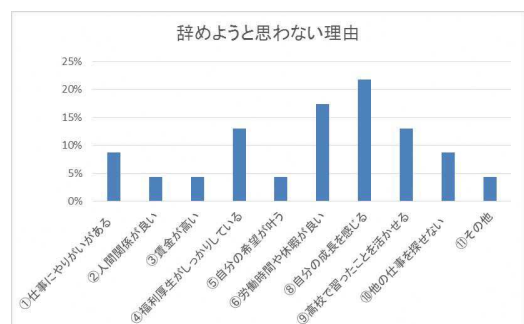
### ◆離職をしたいと考えたとき、仕事を続けられた理由◆

アンケートから、「会社の同僚や仲間が相談にのってくれた」「上司や先輩が相談にのってくれた」の回答数が多いことから、職場での良好な人間関係を構築することが、仕事を続けられる大きな理由であることが分かる。



### ◆離職を考えたことがない者の回答事例◆

アンケートから、「自分の成長を感じる」のほか、「労働時間や休暇が良い」「福利厚生がしっかりしている」など職場環境に満足していることにより、仕事を続けられていることが分かる。また、「賃金が高い」は、仕事を続ける理由としては、影響が低いことが分かる。



2 高校卒業後、仕事を続けている卒業生に対して、実際に働いてみて気付いたことを聞き取ったところ、次のような事例があった。

[ 調査は砂川高校を卒業し、現在も在職している者へインタビューしたものをまとめたものである。 ]

◆概要◆

- 就業者からは、社会人になることで責任をもつ大切さを実感したことや、仕事に目標をもつようになると、達成感を得ることができたため、仕事を続けられているという声があった。
- 高校生活において、「やっておいた方がよい」と思うことは、学習だけではなく、メモをとる習慣やコミュニケーションをとることなど、就業に必要な能力を身に付けることが大切であるという声があった。

◆実際に働いてみて気付いた事例◆

(高校時代との違い)

- ・自分の行動の全てに責任が伴うため、無責任な事はできないという意識が芽生えた。
- ・できないものは放置せずに克服しようと思うようになった。
- ・絶対に遅刻してはいけないという意識をもつようになった。
- ・私生活において、お金の管理をきちんとするようになった。

(高校生活の経験で仕事に生かしていること)

- ・分からない事を聞くこと。また、働き始めてから高校時代に指導されたことの大切さを実感した。
- ・見学旅行において、普段あまり交流がない人を相手にしても率先して話しかけていくようにしたことにより、物怖じをしない気持ちが生まれた。
- ・漢字検定を取得したことにより、PC作業中に分からない漢字が出てきたときに、別の読み方で入力することができた。
- ・部活動などを3年間、やりとげたことで、途中で物事を投げ出さない精神をもてた。
- ・建設現場では三平方の定理などをよく使うため、高校の数学を生かすことができた。

(仕事内容でやりがいを感じること)

- ・自分の仕事に対して、褒めて貰える（評価して貰える）と嬉しい。
- ・仕事で携わった建造物などが地図に掲載された。
- ・機械のオペレーションが上手くできた。

(仕事を長く続けるために必要なこと)

- ・1、2か月など、短期間での目標をもつこと。少しずつ分かることが増えていき、仕事が楽しくなること。
- ・コミュニケーションのとり方を意識して働くこと。
- ・部活動などで団体行動に慣れることや、仲間意識を強くもつこと。
- ・建設業においては、モノをつくるのが好きなこと。

(就職後、仕事を続けていくに当たって高校生でやっておいた方がよいと思うこと)

- ・仕事で使う資格を取っておくこと（農協では簿記が必要）。
- ・メモをとることと挨拶をすること。
- ・コミュニケーションをとる練習をしておくこと。
- ・基礎学力を身に付けることや、簿記、PC関係の検定を取得すること。
- ・部活動に真剣に取り組むこと。
- ・建設業について、高校でもっと知る機会があること。

3 過去3年間卒業生が就職した企業を対象に、離職の実態や課題等について、アンケート調査をしたところ、次のような事例があった。

調査は、千歳北陽高校が早期離職の改善の取組として、124社にアンケートを発送し、回答があった72社の回答をまとめたものである。

◆概要◆

- 新規高卒者における、早期離職の改善に向けた企業側の考え方や、入社した者への対応などを把握するためにアンケート調査を行った。
- アンケート結果では、早期離職をさせないために企業側がメンター制度を活用することや、同僚に仕事の悩みを相談しやすい職場環境をつくるなどの工夫をしている。

◆早期離職者が少ない(多い)と感じること◆

【離職者が少ないと思われる理由】

目線を新入社員に合わせている、相談しやすい環境づくりをしている、面倒見の良い先輩がいる、コミュニケーションを意識している、教育担当の選任をしている、研修が充実している、定期的な個別面談をしている、研修後のサポート体制が充実している、労働環境を改善している、無理のないステップアップ制度を整えている など

【離職者が多いと思われる理由】

他社の方がよく見えてしまう、辞めてもすぐ就職先は見つかるという意識がある、仕事が向いてなかったとすぐに判断してしまう、本当にやりたい仕事分からないまま高校を卒業している、社会人としての自覚が欠如している、入社前の仕事のイメージとのギャップが大きい、学生から社会人への自立に時間がかかる、業務内容を理解するまで時間がかかる など

◆新規高卒者への入社後の研修内容◆

ビジネスマナー、外部講師からの講話、OJT(実務経験)、会社の考え方やルールなどの説明、資格取得のため訓練校へ通学、面談の実施(メンター制度) など

◆新規高卒就職者への対応に関して気を付けていること◆

コミュニケーションをとるように気を付けている、相談しやすい職場環境づくり、年齢に近い社員を新入社員担当にしている、配属先の考慮、資格取得の支援、時間外勤務が増えないようにしている など

◆新規高卒就職者への対応で困惑していること◆

社会人としての自覚が足りない、コミュニケーションがとれない、敬語が使えない、一般常識が身に付いていない、電話応対、掃除嫌い、メンタルが繊細、自分の考えをうまく表現できない、報告・連絡・相談がない、会社のことをSNSに投稿する など

◆新規高卒就職者へ好印象をもつこと◆

元気がよく挨拶ができる、素直である、清潔感がある、明るい、礼儀正しい、誠実である、向上心がある、立ち直りが早い、真面目である、休まない、積極的な姿勢がある など

◆新規高卒就職者に最低限、身に付けて欲しい素養◆

挨拶ができる、礼儀正しい、明るさがある、真面目である、協調性がある、仕事とプライベートを切り替えられる、健康管理ができる、全力で取り組む姿勢 など

◆高等学校で必要な教育・学習◆

社会人としてのマナー・ルール、学生と社会人の違い、メンタル面を強化する教育、コミュニケーション能力、職場体験、アルバイトの経験、ワード・エクセルの習得 など

4 早期離職する要因や理由について、事業所や卒業生へ聞き取ったところ、次のような事例があった。

調査は、砂川高校が企業訪問を行い85社から聞き取った内容や早期離職をした卒業生へのインタビューをまとめたものである。

◆概要◆

- 事業所からの聞き取りでは、職場においてコミュニケーションがとれないことから、職場において指導されたことが伝わらないなどの理由により、離職をする場合がある。また、仕事を継続できる者の特徴としては、落ち着いた生活を送ることや、仕事に対して誠実に取り組む姿勢があるなどの回答があった。
- 卒業生からのインタビューからは、就業を希望した仕事のイメージが違うことや、給与の仕組みを理解していないことなどが、離職の理由としてあげられている。

◆離職理由や仕事を継続する者の特徴（事業所聞き取り）◆

職種	離職理由	継続する者の特徴
建設・採掘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉体労働がきつい、朝が起きられない。</li> <li>・挨拶ができないなど、コミュニケーション能力が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた生活を送っている。</li> <li>・高校在学中にアルバイトをしたり、団体に所属するなど、大人と接する経験が多い。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち仕事や拘束時間を辛く感じる。</li> <li>・コミュニケーションをとることが苦手に感じる。</li> <li>・求人票を見ただけで採用試験を受験し、入社をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な挨拶ができる。</li> <li>・職場や、お客様とコミュニケーションが取れる。</li> <li>・働く目的をしっかりと持っている。</li> </ul>
卸売・小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・叱られ慣れていない。職場で注意されると心が折れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルバイト経験があり、働いて金銭を稼ぐという感覚がある。</li> </ul>
生産工程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の声が小さい。コミュニケーションがとれない。</li> <li>・先輩からのアドバイスに対して反応が薄い。</li> <li>・人間関係のもつれで、職場から孤立してしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真面目でコツコツ仕事ができる。</li> <li>・元気に挨拶ができ、コミュニケーションがとれる。</li> <li>・気が強い。</li> </ul>

◆早期離職をした理由（卒業生インタビュー）◆

- ・就職を希望したときのイメージと実際の仕事内容が違った。
- ・就業してみたら想像以上に、肉体的に辛い仕事であった。
- ・給与明細を見たときに、アルバイトをしていたときより金額が少なかった。（保険料などが天引きされるなど、給与明細の見方が分からない。）
- ・仕事上、取得しなければならない資格が取得できなかった。
- ・思うようにコミュニケーションが上手にとれず、職場において良好な人間関係がつけられなかった。

【参考】仕事を継続しやすい環境づくりに向けて、事業者の取組や意見を取りまとめました。

○取組

- ・仕事を頑張っている社員を投票で決め、上位の者には旅行を褒美として与えている。
- ・若い管理職を育て、新入社員との考え方のギャップを減らす。

○意見

- ・保護者も参加できる企業説明会を行い、保護者と企業とのミスマッチを減らしたい。
- ・インターンシップは実際の仕事内容を体験させたい。

○各研究指定校の取組と成果

	取組	成果
砂川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問を行い、離職率調査及び仕事を継続している卒業生を対象としたインタビュー</li> <li>・企業訪問時における、離職した卒業生の離職理由の聞き取り</li> <li>・高等学校就職促進マッチング事業等への参加促進</li> <li>・進路相談員（CPSV）によるキャリアカウンセリング</li> <li>・成果発表会の実施（中小企業家同友会参加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事を継続している理由が明らかになった。</li> <li>・離職した卒業生と仕事を継続できている卒業生との相違点が明らかになった。</li> <li>・生徒の進路実現のために必要な職業観を意識付けることができた。</li> <li>・就職活動の心構えや所作を身に付けることができた。</li> <li>・研究成果を収録した冊子を発行し、関係企業や管内高校に配付し情報共有を行った。</li> </ul>
千歳北陽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問やアンケート、意見交換を行うとともに、企業訪問時に卒業生との面談を実施</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>意見交換会は「千歳市民の意見を聴く会」を開催し、地元の商工会議所、観光連携、工業クラブ等の方々と意見交換をしたものである。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所への聞き取り</li> <li>・公共職業安定所と連携した千歳地区就職促進会やジョブカフェ就職セミナー開催</li> <li>・都心から離れた東京都立高校への視察（千歳北陽と似たような環境にある学校）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期離職を防止するには、職場内の円滑な人間関係やコミュニケーションが重要であることが分かった。</li> <li>・職種等において、生徒のイメージとミスマッチが生じないように、高校在学中に職業に関する知識や職業観を育成することが重要であることが分かった。</li> <li>・読み書きや一般常識、挨拶やマナーなど、基礎学力や基本的な生活習慣の確立などの指摘があった。</li> <li>・就職希望者への指導を充実させることができた。</li> <li>・生徒の特性に応じて日常の学習指導や生活指導を行うことや、進路選択に関して丁寧に個別の支援を行うことが、就職先での定着率の向上に繋がることが分かった。</li> </ul>
室蘭栄(定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望調査の結果を踏まえた企業の求人開拓及び企業訪問</li> <li>・生徒に対する就職相談やキャリアカウンセリングの実施</li> <li>・公共職業安定所や進路相談員（CPSV）と連携し、管内企業の雇用状況を把握</li> <li>・職業講話や企業説明会等の講演会を開催し、生徒の職業理解を促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期から実施するため、ハローワーク等との連携を強化する必要があることが分かった。</li> <li>・早い時期から開始する必要があることが分かった。</li> <li>・3、4年生の生徒及び保護者へ随時、情報提供ができた。</li> <li>・全ての生徒の意識を向上させるため、進路担当が主体となり、学校全体の取組とする必要があることが分かった。</li> </ul>
浦河	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生及び就職先への追跡調査</li> <li>・「企業理解」「職業理解」をテーマとした企業説明会の実施</li> <li>・応募前企業見学への参加促進</li> <li>・進路相談員（CPSV）や公共職業安定所と連携した情報収集</li> <li>・教育局や公共職業安定所などが主催した就職支援事業への参加促進</li> <li>・公共職業安定所と連携したビジネスマナーや労働法についての就職前講話を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域から求められる人材や、離職要因について理解を深めることができた。</li> <li>・新規事業所の開拓や人事担当者との情報交換ができた。</li> <li>・生徒、保護者の共通理解を図り、就職活動を行うことができた。</li> <li>・生徒の特性を考えながら、個に応じた就職支援を実現できた。</li> <li>・企業との情報共有や求人開拓の一助となり、企業が求める人材を知ることにより、ミスマッチを防ぐ就職支援へ繋がった。</li> <li>・就職前の不安を軽減することができたほか、公共職業安定所の役割や業務内容について理解することができた。</li> </ul>

	取組	成果
上 磯	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談員（CPSV）と連携した早期離職改善のための企業訪問及びアンケートの実施</li> <li>進路相談員（CPSV）から、職業観や働く意義についての指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校側と企業側が必要としているコミュニケーション能力には、大きな認識の違いがあることが明確になった。</li> <li>企業側では、挨拶や日頃の会話だけでなく、事実を正確に伝えることなどがコミュニケーション能力として必要であることが分かった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職指導会議における関係機関との連携及び成果の普及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携を深めるとともに、進路指導の改善と効果的な指導体制について協議し、共有することができた。</li> <li>地域の求人情報や企業との情報共有について、就職支援教員と関係機関（教育局等）が連携することにより、一層進めることができた。</li> </ul>
遠 別 農 業	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して働いている卒業生を対象にアンケートを実施（管内公立高校5校）</li> <li>「個別（少人数）型」や「体験型」の進路行事の充実</li> <li>ポートフォリオの活用（進路行事、各教科等の活動）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事を継続していく上で必要な能力や職場環境の分析を行い、就職指導が充実した。</li> <li>就職後のミスマッチを予防し、就職に対する意欲を高めた。</li> <li>生徒自身による学びの振り返りを充実させた。</li> </ul>